



町民一丸で未来創生と
持続的発展に向けて歩む

厚真町長 宮坂 尚市朗

新年明けましておめでとつござい
ます。

2024年の輝かしい新春を迎え
るにあたり、町民の皆さまに謹んで
ごあいさつ申し上げます。旧年中は、
皆さまから町政諸般にわたり特段の
ご理解・ご協力を賜り、心より感謝申
し上げます。

昨年は、本町に未曾有の災害をも
たらした平成30年北海道胆振東部地
震から5年という時を刻みました。
順調に進む災害復旧事業や新型コロナウイルス感
染症の5類への移行を
受けて、ようやくご遺族並びに震災
尽力者など多くの関係者をお迎え
し、献歌の部を盛り込んだ厳粛な追
悼式を挙行できました。改めて犠牲
となられた37名の方々を偲び、ご冥

福をお祈り申し上げるとともに、復
旧・復興とその先にある地域創生と
持続的発展に向けた歩みを町民一丸
となつて進めていくことをお誓い申
し上げました。発災からこれまでの
間、全国・全道の関係機関から深い
ご理解と多大なご尽力を賜り、また
全国から寄せられた温かいご支援に
重ねて心から感謝申し上げます。

町内では、人里に近い急傾斜地の
安全確保と社会基盤の復旧工事は、
概ね完了しています。森林再生につ
いては、令和8年度までを重点取り
組み期間として、これまでの取り組
みをさらに加速させていきますが、
心のサポートや宅地耐震化事業につ
いては、引き続き丁寧な対応を心が
けてまいります。

未曾有の困難にあつても、決して
努力を惜しまず、夢を諦めない私た
ち厚真の町民ですから、一人ひとりの
未来を切り拓く決意とご理解によ
りました。一方で、被災された町民
の皆さまが抱える不安、悩みはこの
短期間では、決して癒えることはあ
りません。それぞれの不安をできる
だけ軽減し、個々の課題解決のため
関係機関や町民のご協力をいただき
ながら、被災者に寄り添い誰一人と
して取り残すことのない復旧・復興
を目指して努力を続けてまいります。

また、震災の記憶を風化させるこ
とのないよう、教訓と復旧・復興の
記憶や経験を町内外と共有し、継承
していかなければなりません。昨年
は、これまでの道のりを振り返り、
改めて経過検証するシンポジウムを
開催するとともに、被災者や尽力者
の皆さまの貴重な証言集として復
旧・復興記録誌も刊行しました。日
本各地で繰り返される自然災害や甚
大な被害が想定されている日本海
溝・千島海溝、南海トラフにおける
大規模な津波を伴う海溝型地震災害
も注目されており、引き続き、命を
守る防災・減災対策に全力で取り組
んでまいります。

出口の見通せない国際紛争は、東
アジアにおける安全保障への危機と
物価・資材の高騰など、私たちの生
活や経済活動に脅威をもたらしてい
ます。その一方で、GX（グリーン
・デジタル）トランスフォーメーシ
ョンにより経済社会システム全体の
変革が進展しており、変化への対応
力、強靱性・復元性を必要としなが
らも長期的な視点に立ち高度な循環
型社会を目指す必要があります。

国においては新しい資本主義によ
る経済拡大と安全保障の強化を目指
していますが、食料安全保障という
観点においては懸念がぬぐえません。

災害復旧事業が一つの区切りを迎え
ているなか、本町では、変化を恐れ
ず本格的に復旧から復興への取り組
みに挑戦しています。いつ起きても
おかしくない自然災害に備えての庁
舎周辺整備や防災・減災対策、エネ
ルギー地産地消や省エネルギー・創
エネルギー・吸収源対策を官・民・
学で総合的に取り組んでいくカーボ
ンニュートラル政策を展開し、着実
に実装しながら復興の新たな骨格と
してまいります。併せて分野別CO
2技術の導入やsocial innovationなど社会
技術革新を取り込みながら次世代に
向けて潜在力を耕し直し、可能性と
いう羅針盤を掲げながら地域創生と
いうハードルにも果敢に取り組んで
まいります。

1次産業を基幹とする本町です
が、人材育成と関係人口の拡大、そ
して地政学的優位性を根幹として、
原点回帰ともいえる人と人との繋が
り、信頼と寛容、自然環境の回復に
傾注しながら、新たな潮流を先取り
しつつ、復興から創生へと歩みを加
速させてまいります。

結びに、「変革・転機」や「激動」
の年と言われる甲辰年が、明るく希
望の持てる年でありますことと、町
民の皆さまのご健勝とご多幸を心か
らお祈り申し上げ、年頭のごあいさ
つといたします。



信頼と付託に応える
議会を目指して

厚真町議会議長 渡部 孝樹

町民の皆さま、明けましておめで
とつございませう。

皆さまには輝かしい新春を健やか
にお迎えのこと心からお喜び申し
上げます。

また、旧年中は日ごろから町議会
に対しまして、温かいご支援、ご指
導を賜り心から厚くお礼を申し上げ
ます。

さて、新型コロナウイルス感染症
は5類に移行され収束の方向に向か
われていると思われませんが、年末か
ら年始にかけてインフルエンザの感染
拡大が続いており、一人ひとりのこ
まめな手洗いやうがい、場面に応じ
てマスクを着用するなどの基本対策

が大切で、これらを習慣化すること
が収束への近道だと思っております。
また、ロシアによるウクライナ侵
略やイスラエル・パレスチナ紛争な
ど海外情勢の変化は、エネルギー価
格や物価の高騰、さらには歴史的な
円安により地域住民の暮らしに甚大
な影響をおよぼし疲弊の一途をた
どっている中ではありますが、町民
が参加する「あつま田舎まつり」、「厚
真町文化祭」の2大イベントが通常
通り開催され、皆さまが家族ぐるみ
で交流を深められたことや、日ごろ
の成果の発表をされたことは、大変
喜ばしいことであります。いずれの
イベントでも大勢の皆さまの笑顔が
広がりました。来年度も更なる活気
に満ちあふれるイベントになる事を
期待しております。

さて、岸田首相は昨年、デフレか
らの完全脱却のための総合経済対策
として、所得税の減税や低所得者世
帯への給付などを盛り込んだ施策に
ついて「賃上げの原資となる企業の
稼働力、供給力の強化を最も重要な
柱にしている。他方、賃金上昇が物
価高に追いついていない状況で、一
時的な措置として国民に可処分所得
を下支えする観点から効果的な施
策」をまとめられましたが、今後ど
のように反映されていくのか、その

動向に期待し注視していく必要があ
ります。
一方、町内においては、北海道胆
振東部地震から6回目の春を迎え町
の姿も環境も大きく変わり始めてお
ります。また、昨年7月にはさわや
かな夏空の下で秋篠宮皇嗣同妃両殿
下が吉野地区を視察され、つたえり
公園内の慰霊碑をご覧になったあと
沿道から小旗を振って出迎えた町民
が見守る中で被災地の子どもたちと
アカエゾマツを植樹されるなど、5
年目としての節目を迎えました。

厚幌ダム、勇払東部導水管につい
ても全町で供用開始されることによ
り基幹産業である農業が安定して営
農できるようになります。気候変
動や生産資材等の高騰など課題は山
積されており、これからも、北海道
や国に対して強く要請を行ってい
かなければならないと考えております。

さて、議会としましては、昨年の
4月に4年に1度の改選が行われ、
11人の議員が町民の皆さまの負託を
受けました。そのうち4人が新人議
員であり、女性議員3人での新たな
体制となり、議員一人ひとりがその
責務を自覚し、議員としてより一層
の資質の向上に努めるとともに、開
かれた議会の下で自由闊達（かつた
つ）な議論を行い、十分な審議及び

審査を尽くし、町民に対し積極的な
情報発信を行うとともに、町民の多
様な意見の把握に努め、議会として
の政策形成機能を強化するなど、議
会の改革・活性化に引き続き取り組
みながら、町民の皆さまの負託とご
期待に応えるべく、誠心誠意尽くし
てまいります。

また、北海道全体的な話ではあり
ますが、次世代半導体の量産を目指
すラピダスが千歳市に進出すること
は、計り知れない経済効果をもたら
すことになるでしょう。2025年
の試作ライン稼働に向け物流や人の
流れは増加しております。これに伴
い厚真町においても経済波及効果を
もたらせることができるように町内
関係機関とも連携を取りながら協力
していききたいと考えております。

どうか、本年も町議会に対し、さ
らなるご理解、ご協力を賜りますよ
うお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆さまにと
りましてご健康で幸多き一年となり
ますよう心からお祈り申し上げ、新
春のごあいさつとさせていただきます
ます。

公職選挙法の規定により、議員から
町民の皆さまへの年賀状は失礼させ
ていただいております。